

8・6ヒロシマへ!

全学連(斎藤郁真委員長) 書記局通信

2018年7月23日
No.516

Tel 03-3651-4861
mail_cn001@zengakuren.jp
http://www.zengakuren.jp/



全学連と弁護団は7月19日、東京地検特捜部に全学連大会襲撃事件の申し入れ行動を行いました。

告訴から1年8ヵ月が経過した今もなお、東京地検特捜部(水庫一浩検察官)は何一つ捜査を進めずに警視庁公安部を免罪しています。これを徹底弾劾して朝から地検前で情宣活動を行い、午後藤田正人弁護士と木下徹郎弁護士が水庫検察官に申し入れ書を提出しました。

同事件の国家賠償請求訴訟で被告・警視庁公安部は、全学連への襲撃を「正当な視察活動」「職務質問に付随する行為」などと居直っています。今年2月には裁判所が警視庁に証拠保全の立ち入りを行いました。が、「一般人のプライバシー」などと理由にもならない理由で拒否しました。

戦争に向かう政府は必然的に腐敗し、弾圧を強めます。その先兵が公安警察です。国家権力の弾圧をはね返し、改憲・戦争を止めましょう! 9月1~2日の全学連大会を警視庁公安部の弾圧を許

さず、全国学生の大結集で闘いとります! 告訴・国賠へのご支援よろしくお願いたします。

[全学連救対部・洞口朋子]



被告訴人 星隆夫、芝拓臣、遠山信次、岡野直人、山本清仁、西澤雄、中山幹也
吉徳健太郎、佐藤敦、古畑直哉、紺野正敬、鈴木達、藤澤弘和、小林正樹、河西昭人
罪名罰条 特別公務員暴行陵虐（刑法第195条1項）
特別公務員職権濫用等致死傷（同法第196条）
共同正犯（刑法第60条）

申 入 れ 書

2018年7月19日

東京地方検察庁 特別捜査部
検察官 水 庫 一 浩 殿

告訴人 作 部 羊 平
同 野地川 泰 介
同 吉 田 耕
同 仲 井 祐 二
同 安 澤 和 芳
全日本学生自治会総連合
代表者委員長 斎藤郁真

「全学連大会襲撃事件」の告訴（2016年11月29日）から1年7ヵ月が経過しました。しかし、いまだに受理すらされず、捜査も何一つ進められていないことに憤りを感じます。

同事件の国家賠償請求訴訟で被告・警視庁公安部は、全学連への襲撃を「正当な視察活動」「職務質問に付随する行為」などと居直っています。また、当日の現場で公安警察が撮影した映像の存在を認めながらも提出を拒否しています。それどころか、今年2月に裁判所が警視庁に対し、証拠保全の立ち入りを行いました。しかし、「告訴の捜査資料になる」「捜査手法が明らかになる」「一般人のプライバシー」などと理由にもならない理由で証拠保全の手続きを拒否しました。

全学連関係者が撮影した映像からも分かるように、公安警察が全学連大会会場前で参加者に突如襲いかかり、羽交い絞めにして、至近距離から顔写真を撮影するなどの許しがたい暴行・襲撃を行った事実は火を見るよりも明らかです。

全学連大会は、全国学生が一堂に会して学生と大学をとりまくさまざまな問題や政治情勢について真剣に討論する場です。警視庁公安部が監視と恫喝のために会場前に集まることそのものが許しがたい行為です。

今、安倍政権や中央官庁を筆頭に、文書の隠ぺい・ねつ造・廃棄が大問題になっています。とりわけ森友問題・加計問題では、財務省が前代未聞の大量の公文書改ざんを行い、「記憶にない」などとふざけきった居直りを続けています。これらすべては、日本という国家が再び「戦争のできる国」に変貌しようとしている中で起きていることです。

戦争に向かう政府は必然的に腐敗し、弾圧を強めます。その先兵が公安警察です。私たちは、学生の闘いを暴力的に破壊しようとした警視庁公安部を許さず、その悪を全社会的に暴きます。

私たちは、東京地検特捜部に告訴の受理と捜査の開始を強く求めます。

以下、申し入れます。

一、全学連大会襲撃事件の告訴をただちに受理せよ。

一、全学連大会襲撃事件の実行犯と責任者の15名を起訴せよ。

以上。